

関西学院大学 研究成果報告

2026年4月17日

関西学院大学 学長殿

所属： 文学部
職名： 教授
氏名： 高垣由美

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 特別研究期間 ☐ 自由研究期間 ☐ 大学共同研究 ☐ 個人特別研究費 ☐ 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	日仏対照研究およびフランス語教育への応用：名詞句とその修飾表現を中心に
研究実施場所	主として自宅
研究期間	2025年4月1日 ～2026年3月31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

研究テーマに即した論文を1編出版し、別の1編の執筆を完了させた。後者の論文は、学術誌での採択決定済みで、国際研究集会での発表採択済みとなっている。また期間中、多くの国際的研究交流の機会を持った。

年度初めは、以下に挙げるような研究交流の場を多くもつと同時に、データの収集に力を入れた。

2025年4月26日にフランスのパリ・シテ大学のAnne Abeillé教授を本学梅田キャンパスに招き、*La Grande Grammaire du Français : la grammaire de tous les usages* (フランス語大文法事典：あらゆる用法の文法)のタイトルで講演会を開催した。フランス語学に関して最高レベル執筆者を集めた大文法書の編者であるAbeillé教授から、その編纂の方針と、編集作業の過程について話しを聞くことができ、また参加者との間に活発な議論が取り交わされた。結果として、現在フランスで問題となっている言語研究の方向性に関する示唆を得た。

5月22日には、フランス国の国立東洋言語文化学院(Institut national des langues et civilisations orientales : Inalco)に招かれ、フランス語で以下のタイトルの招待講演を行った。

De l'influence de la culture sur les modes d'expression : quelques observations contrastives entre le français et le japonais (表現方法における文化の影響について—フランス語と日本語の間の対照的観察)

講演に参加したフランスの対照修辞学の専門家や、国立東洋言語文化学院の日本語

学科の学生さん達と交流を行い、将来の国際的研究交流の可能性を広げた。

また同大学で大学教授昇任資格（Habilitation à diriger des recherches : HDR）の審査に加わり、審査委員として公開審査会に出席した。この審査の過程で、日本におけるフランス語教授法を、フランスにおける日本語教授法との比較で考えることができた。また審査会の機会を利用して、現代フランスを代表する、日本語学の専門家達との国際的交流を実施することができた。

さらに滞仏中にヴィレール・コトレ市のフランス語教育センターを訪れ、現在にいたるフランス語教育の発展の歴史と現在のフランス語圏についての最新の知見を得た。また同センターの展示における名詞句データを収集することができた。同様に、フランス国立図書館を初めとする複数の博物館・美術館を訪れて、展示における名詞句データを収集した。

5月31日には、青山学院大学に出張し、日本フランス語学会のシンポジウムの企画・運営を行った。このシンポジウムは「Ducrotの過去・現在・未来」と題し、フランスの言語学者オスヴァルド・デュクロの理論を広く日本の言語学の関係者に紹介する意図で開催したものである。このシンポジウムの企画・運営を通して、デュクロの理論の専門家3名と深く関わり、この理論に関するさまざまな知見を得ることができた。

8月1日、2日、3日には北海道大学にて開催された国際研究集会 PHRASEOPRAG : *Phraséologie pragmatique des interactions orales et médiées — Regards croisés et perspectives interdisciplinaires*（PHRASEOPRAG：会話と媒介の交差の語用論的定型句表現—学際的視点と交錯する視線）に出席し、二件の研究発表の司会も務めた。研究集会期間中には、日本各地及びフランスを始めとした世界各国からの参加者、特に大学院博士課程の若手研究者と交流を行った。後日この大会論文集に出版予定の論文の査読も務めた。

年度の半ばからは、それまでに集めたデータを元に、フランス語の名詞句の修飾表現の研究を深めることに集中した。まず主要部名詞の内容を表す従属節について、従属節マーカーが *où* の場合を検討してその特徴を明らかにし、その研究成果を以下の論文として日本フランス語学会の学会誌に発表した。

高垣由美「内容節を導入する *où*」『フランス語学研究』第59号

この論文で示された研究は、名詞句の修飾表現が節の形で現れるものであるが、それに引き続いて、形容詞による名詞句の修飾表現の研究に着手した。特に、関係代名詞の先行詞が文法的には名詞だが、意味的にはその名詞を修飾する形容詞（の表す概念）となっている、特異な構文に着目して、その生起条件の同定を目指した。そしてその研究成果を、以下のタイトルの論文の形にまとめあげた。

L'antécédent adjectival d'un pronom relatif : des uniformes bleus qui est la couleur officielle de la police（関係代名詞の形容詞の先行詞：「警察の公式カラーである青色の制服」）

この研究を、10^e Congrès mondial de linguistique française（第10回フランス語学世界大会）で発表すべく2026年1月に論文を投稿し、3月に採択決定通知を受けとった。この研究は2026年7月にフランス国アルトワ大学で開催予定の同大会で口頭発表の上、論文は同大会のジャーナルに掲載される予定である。

年度末の3月26日、27日には、上記の言語学的研究をフランス語教育へと応用するための方策を研究するために、第40回関西フランス語教育研究会（ランコントロール）に出席し、5つのワークショップに参加した。AIの教育利用を中心として、最新の教育方法に関する知見を深めた。

結局本研究の遂行のため、年度中に合計でオンライン参加も含めて8つの国内外の学術研究集会に参加した。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。